

「道議会新庁舎禁煙に」

市民団体、さじょう質問状

来年1月完成予定の道議会新庁舎に喫煙所を設けないよう求め、札幌の経営者らでつくるまちづくり団体「北海道の未来を拓く会」(新藤大次郎会長)は18日、道議会の村田憲俊議長と全5会派、鈴木直道知事宛てに公開質問状を提出する。道有施設の大半が禁煙になると、喫煙所の設置は「議員特権的なもじりで自らに

甘く、道民に説明できない」と指摘。27日までの回答を求める。

新庁舎は来年6月ごろか

ら利用が始まる。それまで使われる現庁舎では、3カ所ある喫煙所以外でたばこ

を吸う議員があり、質問状は現状について「恥ずかしい事態」と批判。「道議会は議員の模範になるべき立場」「不特定多数の道民が出

入りする」として直ちに全面禁煙にするよう訴える。

改正健康増進法により、行政機関は7月から全面禁煙になるが、道議会新庁舎は

議決機関だとして対象外。来年4月からは飲食店と同様、排気や分煙対策をすれば、喫煙専用室を設けられ

る。議長と知事への質問状では、新庁舎に専用室を造った場合の経費も聞く。

(佐藤陽介)

最大会派の自民党・道民会議、第2会派の民主・道民連合は新庁舎に喫煙所を置くよう求め、現時点では認められる見通し。

拓く会は道議会の専用庁舎新築を巡り、道民参加の會議論が行われず、100億円超の巨費を充てるべきではないと反対していた。日本禁煙学会北海道支部も19日、喫煙所設置の撤回を議長に申し入れる。